

# 178

こんにちは。塾長の大井です。

4期生の受験が終結しました。おかげ様で今年で3年連続御三家合格を達成することもできました。

皆様、あたたかいご声援をありがとうございました。

3期生受験戦記も今回(第42回)が最終回・前編です。

長く共に学んできたMくんの快挙を、女子たちも心から祝福しました。彼女たちは自分がどうあれ、人の歓びに共感する優しさを持ち合わせた子たちでした。

それでも朗報を知った2月3日は、2人にとっては大きな逆境でした。4日に第2志望の浦和明の星(2回目)を控え、3日は押さえとしての意味合いが強い大妻中(Aさん)、東洋英和中(Uさん)をそれぞれ受験しました。2月1日の雙葉、2日の学校と相次いで落とし、もう後がない状況です。

まず合格を取ったのはAさんでした。夕方一緒にTOPで合格発表を

迎えた A さんは、自分の番号を見つけ、安堵の表情を浮かべました。

「これでもう明日浦明をとるだけだな！」

「はい！明日が勝負ですから。がんばってきます！」

実戦の中で、特に苦戦の中で、合格は何よりの自信となります。この合格は A さんにとって確かな手応えと自信になりました。そして翌日の浦和明の星は、A さんが雙葉と並んで通いたいと言っていた第 2 志望の学校でした。

一方の U さんは、出来を聞いても歯切れが悪い答えでした。悪い予感がしましたが、結果は夜深い時間まで分かりません。

そしてまたも A さんと明暗が分かれました。夜の発表で、東洋英和を落としたのです。予感的中しました。

「受験の日も朝ゆっくり寝てるんです。」

そんなお母さんの言葉が、面接練習での U さんの芯のない受け答えと共に蘇りました。

「こんな受験じゃダメだ。このまま何となく受けても、明日も 5 日もやられるだけだ。もう退路を断って賭けるしかない。」

田宮とそう話しながら、

(明日の浦和明の星は、ただの激励じゃ足りない。)

そんな言い知れぬ危機感を募らせていました。

2月4日。浦和明の星2回目。

AさんとUさんの最後の、最大の挑戦です。田宮と早くから応援に駆けつけ2人を待ちます。

Uさんは案の定、悪い意味で緊張感も危機感も感じさせない、平然とした表情でやって来ました。とてもこれから勝ちゆく顔には見えませんでした。普段は温厚な田宮もこの時ばかりはすさまじい剣幕で発破がけしました。

「U、もう今日しかない。今日で最後だ。自分のありったけを答案にぶつけろ。全部出し切れ！！」

そんな私たちの叱咤にも似た激励で、Uさんも何かを感じたようでした。真剣な表情になり、じっと目を見て頷いていました。

自分の全てを出し尽くす。

それなくしてどんな勝利も勝ち獲れないのは、受験も全く例外ではありません。

そしてAさんがやって来ました。共に長くを歩み、大きな負けを超え、今日が「その時」だと体感している充実の表情でした。

でもAさんの瞳にあったのは、出陣式の予言のような「受かるだろう」ではなく、「受かってみせる」その一念でした。

そこにもう言葉は必要ありませんでした。

「行け、A！！受かってこい！！勝ってこい！！」

そう言って、自然と愛弟子の首に私と田宮は自分のメダルをかけました。思えば2期生のAくんも、3つのメダルをぶら下げて、狭き門をくぐりぬけ、最後の最後に逆転合格を果たしたのです。

会員番号1番のAさんは、満面の笑みでうなずくと、確かな足取りで校舎へと向かっていきました。

あとはもう祈るだけでした。

試験後、2人は晴れやかな顔で帰ってきました。

「全部出しきりました。もうやり残したことはないです。」

そう初めて言い切ったUさんの言葉に、田宮は嗚咽して泣いていました。

その日、不思議なことがありました。

2人が再現答案を作っていたちょうどその時、大手進学時代の6年前の私たちの教え子が、不意にTOPを訪ねて来たのです。

彼女も今年大学受験で、ふらっと立ち寄ったその教え子=Fさんは、他ならぬ浦和明の星の生徒でした。

「先生、お久しぶりです！」

「おう、F！もしかして今日受けた子いるの知ってた？」

「えっ、うちの学校受けたんですか？！」

それは不思議な偶然でした。

AさんとUさんも興味深そうに私たちの話に交じって来ました。

「この2人だよ。F、浦明の6年間楽しかった？」

「最高でした！いい学校だよ～！」

それは束の間の時間でしたが、きっと偶然を超えた何かが引き合わせてくれたような邂逅だった気がします。

それでも――。

翌2月5日。2人に突きつけられた結果は不合格でした。

そして実に驚くことに、この2人の本当の成長はまさにこの瞬間から始まることになるのです。

(最終回・後編につづく)

2018年2月12日

大井雄之